SEQUIMINI ME

セクイミニメ

No.44

SPRING 2013

桃山学院大学チャペル・ニュース

目　　次

巻頭言「自由と愛の精神を内に秘めて」　チャプレン　松平　功 …… 1

先輩からの便り「なつかしの SCA」　第 31 期生　越智（おち）　真理（しんり） …… 2

～ 桃学大 SCA（学生キリスト者会）活動報告 ～
「52nd 桃祭出店記録　～ たこせん ～」
SCA 部員　社会学部　社会福祉学科 3 回生　佃　昭佳 …… 5

キリスト教センターからのお知らせ …… 6

2012 年度チャペルコンサート、クリスマス礼拝献金のご報告 …… 7

聖書の花園（27）「いちじく桑 ― ザアカイが登った木」　金城　盛紀 …… 8
（本学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授）

～ オルガン講習・感想文 ～

(1)「大好きなオルガン（憧れと 3 つの夢）」　社会人聴講生　小宮喜代子　10
(2)「オルガン講習を経て」　法学部 4 回生　橋本　弥生　10
(3)「やってみること」　法学部 3 回生　榎本　汐莉　11
(4)「心に響く音色」　国際教養学部 3 回生　井上　絢加　12
(5)「オルガン感想文」　経済学部 4 回生　稲村有李乃　12
(6)「オルガンと出会って」　経済学部 4 回生　皆川　智苑　13
(7)「感想は、「とても楽しかった!!」それに尽きます」　国際教養学部 3 回生　木村　美亜　13
(8)「オルガン講習を通して」　社会学部 4 回生　番匠　祐貴　14
(9)「二回目のパイプオルガン講習を終えて」　法学部 4 回生　吉内　隆弥　14
(10)「貴重な体験をありがとうございました」　社会学部 2 回生　寺山　咲希　15

＜キリスト教センター関連等諸行事＞（2013 年 1 月～ 2013 年 3 月） …… 16

聖書の言葉

「わたしはあなたを目覚めさせ 行くべき道を教えよう。
あなたの上に目を注ぎ、勧めを与えよう。」

（旧約聖書・新共同訳、詩編 32 編 8 節）

表紙：桃山学院大学チャペル
撮影：学校法人桃山学院

「自由と愛の精神を内に秘めて」

チャプレン（大学付牧師） **松平　功**

「あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。」（新約聖書ガラテヤの信徒への手紙5章13節b－14節）

皆さんは、20世紀の「三種の神器」が冷蔵庫、洗濯機、テレビだったことをご存知でしょうか？ 現在ではそのような家電が家にあるのは常識で、その他にもエアコン・電子レンジ・自動皿洗機・パソコン・スマホなど数えきれないほどの便利なものがあふれています。「もっと楽をすることができないか」という願いから、様々な生活用品が開発され本当に便利な世の中になりました。しかし、そのような進歩も人間に弊害をもたらすことがあります。例えば、現代人は交通機関の発達や車の普及で歩くことが少なくなり、それがメタボシンドロームを生み出す原因の一つになっています。また、福島の原発事故による放射能汚染や生態学的破壊を考えると、人類の進歩と破滅は紙一重であるような気がしてなりません。文明の進歩は人類を幸福にしていることは否めない事実ですが、その進歩が人類を不幸に陥れることもあるということを知っておくことも必要です。そのように考えてみると、本当に大切な事は知的進歩・探求以前に内面的成長を追求することにあると言えるのではないでしょうか？ そういう意味において、現代の大学では知識偏重型の教育ではなく学生の心の教育が最も必要とされていると思います。

桃山学院は、ミッション系の学校です。129年前に英国教会（日本では聖公会という名称）から来日した宣教師、C.F. ワレン師によって創立されました。学生にはあまり知られていないようですが、彼の名前にちなんでチャペルのすぐ近くに「ワレン館」と名づけられた建物もあります。そして本学はキリスト教の「自由と愛」を建学の精神としています。つまり、本学はキリスト教によって創られ、キリスト教の精神を教育理念としているということです。

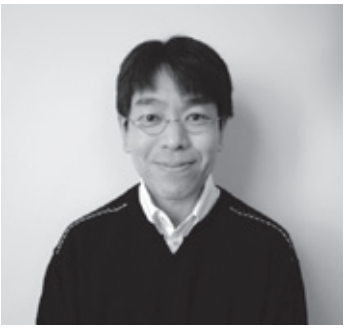
在学生も含め新入生も、その殆どは、キリスト教に十分な理解を持っていないと想像しますが、クリスチャン・スピリットを建学の精神としている大学で学ばれるのであれば、キリスト教系の授業を受講したり、チャペルでの活動に参加したりして、キリスト教およびそれを基礎とした考え方などに是非、触れていただきたいと思います。そのような学びの中で、現在の社会が求めている大学での学問のあるべき姿に気づき、その方向を見出すことができるかもしれません。単に「もっと楽をすることができないか」というような願望から進歩していく現代社会の在り方に良い意味で疑問を投げかけ、本質的に人間が幸福に過ごすことのできる社会を追求する若人が多く輩出される大学として存在することができればと願ってやみません。本学での学びの中で専門的知識を培い、さらにクリスチャン・スピリットである「自由と愛」を内に秘めて、桃山学院大学の学生として素晴らしい内面的成長を遂げられるように期待しています。

先輩からの便り

「なつかしのSCA」

第31期生　越智（おち）　真理（しんり）

（現在：シルバー人材センター職員）



大学時代のことを思い返してみたところ、忘れてしまっていることも多くて驚きましたが、なつかしく書き進めました。個人的な回想ですが、当時の雰囲気が少しでも伝わればいいなと思います。もう20年程前のことになるので、記憶があやふやだったり思い違いがあったりするかもしれませんがご容赦ください。

はじめに

桃山学院で過ごした4年間でいちばん深く関わったのがクリスチャンのサークルであるSCA（学生キリスト者会）です。クリスチャンホームに生まれ高校生のときに洗礼を受けていたわたしは、高校時代には聖書研究会へ所属していました。大学生になっても同じようなクリスチャンの集まりに参加して何か活動ができればと思っていました。

あかずのボックス

わたしが入学した桃山学院大学は、現在の場所ではなく堺市と大阪狭山市の境界あたりにあった登美丘学舎と呼ばれていたところです。今のような新しくきれいな校舎ではなく、かなり歴史を感じさせる（簡単に言うと古くてきたない）校舎でした。でもわたしが入学した春には、学内のあちらこちらに大きな桜が満開に咲き誇っていました。

桃山学院大学に入学してまもなくサークル活動の紹介がありました。いただいた資料からクリスチャンサークルの名前がSCAであると知りました。文サ連のボックス棟は大学の一番隅にあり、SCAのボックス（部室）は2階の一番端にありました。さっそく訪問したSCAのボックスにはカギがかかっていてノックしても誰もいないようでした。他にも興味のあるサークルがいくつかあったので、それらを訪問したついでにSCAのことも聞いてみたところ、SCAの部室は”あかずのボックス”と呼ばれていることがわかりました。扉の開いているのをあまり見たことがなく、どんな活動をしているのかもよくわからないのでそう呼ばれていたようです。古い校舎に挟まれてぽつんと建ったボックス棟、そこにある謎に包まれた、あかずのボックス・・。ホラーに出てきそうなシチュエーションに若干の不安を抱きました。しかし、めげずに何度か訪問した結果、ついに扉の開いているときに行くことができました。こうしてわたしの桃山学院におけるSCAの活動がはじまり、4年間根城にさせていただいた愛着のあるボックスに第一歩を踏み入れたのでした。

入部当時のSCA

わたしが入部した当時のSCAは、5、6人の先輩メンバーがいたようですが、普段会うのは2、3人で、めったに会わない人たちもいま

した。わたしから少し遅れて、同級生の男子がひとり入部しました。SCAでは、聖書研究会を週1回もつことになっていましたが、先輩たちは色々とお忙しかったようで、実際のところ活動は不定期あるいは半休止という感じでした。そのような中でもそれなりに熱心に活動しておられた3回生の先輩が「おち、聖書読んでるか？」、「おち、聖書はええぞー！」「おち、聖書読めよ！」と会うたびによく口にしておられました。当時のわたしはそんなに熱心なクリスチャンではありませんでしたので、先輩のその言葉を聞くたびに「はぁ」などといい加減な返事をしながら少し後ろめたい気持ちになったのを覚えています。

KGK

SCAのボックスにKGKの主事という方が時々訪ねて来られました。キリスト者学生会のローマ字の略でKGKなのだそうですが、SCAに入るまでKGKのことをわたしはほとんど知りませんでした。KGKでは、色々な大学のクリスチャン学生が集まって定期的な集会や、夏合宿のようなことをしていました。わたしもそれらに何度か参加したことがあります。主事さんは色々な大学のクリスチャンサークルを訪ねてクリスチャン学生を励ましたり大学を越えたKGKの活動に誘ったりしておられました。

中国へ

一回生の夏、KGKの全国的なイベントとして日中文化交流キャンプというものがありました。日本のクリスチャン学生が中国へ行き、現地の学生と交流をもって彼らにキリスト教を伝えましょう、という企画でした。わたしは何もわからないながらもこのキャンプに参加しました。20名ほどの学生と一緒に中国の内モンゴルの大学へゆき、一週間ほど現地の学生と一緒に過ごしました。こちらが伝道の目的をもったクリスチャンの集まりであるとは明かしていなかったので、おおっぴらに福音を伝えることはできません。生活をともにする中で個人的に神様のことを伝えることができれば、と願っていました。一人の中国人学生に対して、自分の信じている神様のことが書いてある書物だと聖書を紹介し、読んで欲しいと言って中国語の聖書を贈ったのですが、ストレートに福音を語ることはできませんでした。中国の大学で過ごした数日間、学生ではないよくわからない人が常に私たちについてまわっていました。いつも監視されているようで数人で集まって祈るということすらもなかなか難しい状況でした。このキャンプでわたしが学んだのは、だれの目を気にすることもなく礼拝し、神様のことを語ることができるこの日本に暮らしているのはすばらしい恵みであるということでした。

新入部員

さて2回生になった春、驚いたことに新入生が5人も入部しました。クリスチャンが3人とクリスチャンでない人が2人でした。その頃、先輩たちはほとんど部室に顔を出さず、また同級生の部員は1回生の夏に大学を辞めてしまっていました。したがってSCAはほとんど活動が止まったような状況でした。そのような状態でいきなり5人も新入部員があったので、おどろくやらうれしいやらで舞い上がったような感じになってしまいました。クリスチャンでない二人に対しては責任のようなものを感じ、自分なりに一生懸命キリスト教のことを説明したり、教会の集会に誘ったりしました。今振り返ると、空回り的な言動がたくさんあったように思います。ともあれ、それまであまり活動のなかったSCAはようやく動き出したのでした。

聖書研究会

さっそく後輩たちと一緒にSCAの活動について相談し、毎週定期的に聖書研究会を持つことにしました。聖書研究用のテキストを用意し、一緒に聖書を読み、テキストに従って設問をみんなで考え、意見を述べ合いました。また聖書の中の色々な疑問などについて一緒に考えたり、それぞれの必要を覚えて一緒に祈ったりもしました。後輩の一人にわたしの所属する教団とつながりの深い教会のメンバーがいましたので、SCAの活動は私たちのスタ

イルが中心になっていきました。ボックスにギターやキーボードを持ち込み、教会で歌っているゴスペル調の賛美を歌ったりしました。他の教団のクリスチャンもいて、彼らと話したり意見を述べ合ったりしていく中で、ひとくちにキリスト教と言っても多くの教派があり、さまざまなスタイルや考え方があるということをわたしは改めて知りました。

他教派

あまり詳しくないのですが、わたしの所属する教会、教団はバプテストという教派に属するそうです。幼い頃からずっと一つの教会で育って来たので、自分の知っている教会が一番普通なのだと思っていました。桃山学院に入学して聖公会（英国教会：本学を創設したキリスト教教派）の礼拝スタイルを見たときにはずいぶん驚き、違和感と共に反発も覚えました。SCA のメンバーに聖公会に所属する人がいました。彼を聖公会の代表としてずいぶん議論をふっかけたように覚えています。議論というよりは一方的に批判ばかりしていたように思います。今思うと、聖公会を含めて今まで自分の知らなかった色々なキリスト教に戸惑い、それまで自分の信じていたものが揺らぐような気がして怖かったのだと思います。その恐れの反動として他の教派に対して攻撃的になってしまったのだと自分なりに分析します。そのとばっちりを受けた聖公会の彼にはずいぶん迷惑なことだったでしょう。彼とは今でも良い友人です。

おわりに

重い鉄の扉、むき出しのコンクリートブロックの壁、一つしかない小さな高窓、赤いじゅうたん・・・夏は暑く、冬は寒かったあの小さく狭いボックスをなつかしく思い出します。SCA で仲間たちと色々な議論ができたこと、本音でぶつかり合えたことはとても貴重な経験でした。自分の知っているものだけが正しくてそれ以外はだめだと子どものように思っていたわたしの世界が広がり色々な価値観があることを知りました。共感を覚えたり反発を感じたりすることもありましたが、たとえどのような価値観に出会ったとしても、自分自身が神様としっかりつながっていれば、決して揺るがされることはないということを学ばせていただきました。

わたしが桃山学院を卒業して数年後、SCA のメンバーがいなくなり活動がなくなったと聞き、寂しく思っていました。ところが昨年、「SCA が復活した！」という話を聞き、とてもうれしく思いました。

世界を創造した神をより深く知り、また神が創造した自分自身やまわりの人々についても考える。そのような貴重な時間を SCA での活動を通じて多くの学生に味わってほしいと願います。

越智先輩の所属教会：堺福音教会
住所〒590-0116大阪府堺市南区若松台3丁34-14
TEL 072-290-0888　FAX 072-290-0855
メール：info@sakaigospel.com
ホームページ：http://www.sakaigospel.com/

～ 桃学大 SCA（学生キリスト者会）へのお誘いとお願い ～

本学 SCA では、バイブル・キャンプへの支援や ACUCA（アジアキリスト教大学連盟）、CUAC（聖公会大学連盟）の Student Camp への参加奨励に加え、様々な活動を予定しています。クリスチャンであってもなくても大丈夫ですので、大学時代の 4 年間に色々な活動を本学の建学の精神を基盤にしつつ、一緒にやってみましょう！SCA 加入希望者は、チャプレンまでお申し出ください。チャプレン室はキリスト教センター内にあります。

また、活動のための募金も受け付けていますので、下記の口座をご参照ください。

三菱東京 UFJ 銀行（普通）店番 458、口座番号 0099601
桃山学院大学 SCA サークル　代表　平井光基

～ 桃学大 SCA（学生キリスト者会）活動報告 ～

「52nd 桃祭出店記録　～ たこせん ～」

SCA 部員　社会学部　社会福祉学科 3 回生　　**佃　　昭佳**

私たち SCA の文化祭の出し物として、模擬店で「たこせん」を販売した。ご存知の方も多いかと思うが、「たこせん」とは、タコせんべいの上に、ソース・マヨネーズ・タコ焼きなどを挟んだ食べ物である。地域や場所によっては、タコ焼きを挟まない場合もあるそうだが、今回私たちはタコ焼きを挟む「たこせん」に挑戦した。文化祭準備当初は、クッキーを販売する予定だったのだが、衛生面の理由により最終的には「たこせん」を今年の文化祭の出し物で出すこととなった。出し物を決定し、いよいよ本格的に文化祭の準備を開始したのは、夏休みが終えた 10 月だった。

SCA 代表である平井君を筆頭に、看板作製や食材調達、必要書類の作成などを行った。看板作りなどでは、女の子たちが看板をかわいらしくデコレーションし、交換留学生のミカエル君の絵が目を引く作品となった。食材調達では、いかに低予算で良い商品を調達するかで各メンバーで話し合った。その結果もあり、食材も良いものを購入することができた。機材は最低限の備品を、桃山文化祭実行委員会からレンタルし、その他は各メンバーの家から持ってきて経費削減を図った。文化祭当日直前まで様々な問題があったが、なんとか無事に文化祭当日を迎えることができた。文化祭当日は、平日と重なりお客さんの数はあまり多くなかったように思える。各自順番に休憩を取りつつ全力で「たこせん」を販売した。他のサークル・部活でも「たこせん」の店が出ていたが、ミカエル君の斬新な宣伝のおかげで多くのお客さんが来てくれた。みんなの協力の元、無事に文化祭一日目を終えることができた。各メンバーが口々に「明日が本番だな」と意気込んでいた。当然のことであるが、SCA はクリスチャンのメンバーが殆どで、日曜日には各々の教会に礼拝に行く。そのため、文化祭の 3 日目は、模擬店を出すことができなかったのだ。そのため、文化祭 2 日目の土曜日が本番・勝負となるはずだった。しかし、文化祭 2 日目は朝から雨で、模擬店を外で出すことができず、残念なことに、私たちは雨の中テントを畳むこととなってしまった。中止ということで材料の在庫をどう処理すればいいのか、困ってしまった。

ところが、テントを畳み終え、意気消沈の面持ちでチャプレン室にいる時に奇跡が起こった。キリスト教センターの集会室を休憩場に使っておられた教育後援会の方々から「たこせんを作ってくれないか？」と注文があったのだ。後援会長の垣村さんが、私たちをかわいそうに思って後援会の皆さんに声をかけてくださったらしい。私たちは、片づけた材料を出して、たこせん作りに取り掛かった。そのおかげで、商品を全て完売することが出来た。こうして雨の降る中、私たちの文化祭は、無事幕を閉じた。文化祭を振り返ってみると、一応成功という形で終わったのだが、それは周りの協力のお蔭といっていいものだった。私たちは、大学職員、チャプレン、OB 先輩、買ってくれたお客さんなど私たちの文化祭を支えてくれた全ての方々に感謝しなくてはならない。そして、次の活動へと生かさなければならない。本当に頼りないメンバーばっかりではあるが、これからも SCA で楽しく活動していきたいと思う。

キリスト教センターからのお知らせ

第 27 回国際ワークキャンプ・インドネシア　参加者募集

【日程】2013 年 8 月 19 日（月）～ 9 月 5 日（木）18 日間を予定
（※国際情勢等の変化によっては日程変更・短縮・延期・中止の可能性あり）
【説明会日程予定】（以下のいずれかにご参加ください）
日　　程：4 月 11 日（木）・12 日（金）・15 日（月）・16 日（火）
時　　間：昼休み（12：40 ～ 13：10）
場　　所：キリスト教センター集会室（※チャペルではありません）
申込受付：4 月 15 日（月）～ 19 日（金）（9：00 ～ 17：00）
☆ かならず、説明会にお越しください ☆

バイブル・ランチに参加しよう！

学期間中の毎週火曜日、お昼休み（12:40 ～ 13:00）にバイブル・ランチを開いています。昼食を食べながら、聖書やキリスト教のお話をします。友人を誘って参加してください。場所は、キリスト教センター集会室です。お菓子や飲物もあります！

チャペルに来よう！

チャペルでは学期間中の毎週、月曜日と金曜日に礼拝を行っています。
朝の礼拝は 8 時 50 分から 55 分まで、昼の礼拝は 12 時 40 分から 13 時までです。
（行事やチャプレンの都合などで中止されることもあります）

チャペルは誰でも大歓迎！

チャペルは、夏は冷房、冬は暖房の効いた心地良いスペースです。休憩や授業の合間など、静かに心を整えるのに最適な場所であるといえるでしょう。チャペルは皆さんのお越しを歓迎します。ただ、雑談・喫煙・飲食は御法度なので、ご注意ください。（ペットボトルの飲水もだめです）

キリスト教センター集会室は利用可能です！

チャペルに隣接しているセンター集会室は、予約すれば使用できます。各種セミナーやゼミの集まり、サークルの活動やパーティーなどに利用できます。飲食可です。

2012 年度チャペルコンサート、クリスマス礼拝献金のご報告

ご協力有難うございました

2013 年 2 月 1 日現在
チャペル事務室

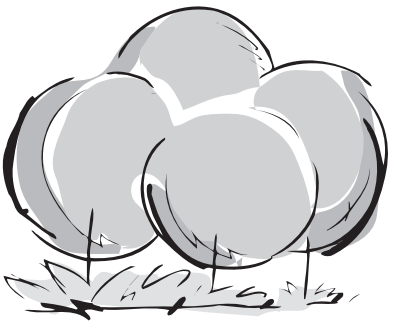
【収入の部】

チャペルコンサート　献金	
月・日	金額（円）
①第 106 回　2012/ 4/21（土）	72,571
②第 107 回　2012/ 5/30（水）	43,294
③第 108 回　2012/ 6/30（土）	45,873
④第 109 回　2012/10/31（水）	46,393
⑤第 110 回　2012/12/ 8（土）	43,157
計	251,288

チャペルコンサート献金は桃山学院東日本大震災支援金に献金しました。

特別献金	
月・日	金額（円）
4/ 2	10,000
4/19	600
12/13　クリスマス礼拝　献金	17,520

クリスマス礼拝献金は桃山学院東日本大震災支援金に献金しました。



【支出の部】

献金送付先	金額（円）
6/13　桃山学院東日本大震災支援金（第 106 回チャペルコンサート　4/21 献金）	72,571
6/13　桃山学院東日本大震災支援金（第 107 回チャペルコンサート　5/30 献金）	43,294
7/ 2　桃山学院東日本大震災支援金（第 108 回チャペルコンサート　6/30 献金）	45,873
7/ 4　（財）日本国際ギデオン協会	10,000
11/ 5　桃山学院東日本大震災支援金（第 109 回チャペルコンサート 10/31 献金）	46,393
12/10　桃山学院東日本大震災支援金（第 110 回チャペルコンサート 12/ 8 献金）	43,157
12/14　桃山学院東日本大震災支援金（クリスマス礼拝 12/13 献金）	17,520
合　計	278,808

いちじく桑 ── ザアカイが登った木

金城盛紀（本学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授）

Wikimedia Commons より

いちじく桑はクワ科イチジク属（Sycamore, *Ficus sycomorus*）の高さ 15 メートルにもなる常緑樹。葉はイチジクよりも桑の葉に似ている。実の形はイチジクに似ているが、味ははるかに劣る。幹からじかに伸びた枝につく。しかし、この木は果実より建築や家具などに利用できる材木として重視された。耐久性があり、古代エジプトのミイラを納めた棺の用材にもなった。枝を大きく広げて木陰を作る。エジプトイチジク、英語では Sycamore Fig, Mulberry Fig とも呼ばれる。なお、シェイクスピアにも出る Sycamore は Sycamore Maple, False Plane とも呼ばれ、カエデ科カエデ属の西洋カエデである。英語では同じ Sycamore で、よく混同されるが、まったく異なる植物である。

有用植物

神はぶどうの木を雹で打ち
いちじく桑を霜で枯らし
家畜を雹に渡し
その群れを稲妻に渡された。
（詩篇 78：47 － 48）

常緑の有用植物であるいちじく桑が霜で枯れるのは大きな禍のひとつであった。作者はイスラエルの過去の歴史を語り、エジプトにおける災厄について思いを巡らしている。神が与えたしるしは多々あって、川の水を血に変えるような超自然的出来事もあるが、自然災害も含まれた。過去を振り返ることは現在・未来の人々に教えるためである。破壊をもたらす正義の神をあらためて認識するためである。

アモスは答えてアマツヤに言った。「わたしは預言者ではない。預言者の弟子でもない。わたしは家畜を飼い、いちじく桑を栽培するものだ。」（アモス 7：14）

アモスは南王国で農業と牧畜業を営む信徒であったが、神に召命されて預言をするようになった。彼は弱い者や貧しい者を虐げる社会的不正も民族を破滅させると訴えた。アモスが、王国分裂後は北王国の聖所とされたベテルにおいて、その破滅を預言した。彼は幻で主の恐ろしい審判を告げられ、そのことを伝えたのだ。ベテルの祭司アマツヤは、アモ

スの預言を王家に対する反逆を扇動するものと解して、その預言を制止しようとした。アモスは預言で生計を立てる職業的預言者として追放しようとした。上に掲げたのは、このような非難にたいして、預言で生計を立てているのではないと述べ、預言は主の命令に従っただけだ（15節）、と反論している。

味はいちじくより劣るが、貧しい人々が食べたいちじく桑をアモスが栽培していたということは、貧者に傾く預言者に照応すると言えようか。

王はエルサレムで銀を石のように、レバノン杉をシェフェラのいちじく桑のように大量に供給した。（列王記上10：27）

列王記上10章はソロモン王の名声を聞いてシェバの女王が訪れる話から始まる。王の知恵と富がうわさ以上であることに驚嘆し「息も止まるような思い」をするが、想像を絶するソロモンの栄華を具体的に描写するなかに、上にあげた27節がある。銀を石のように、そして、「神の園の杉もこれに及ばず…神の園エデンのすべての木もうらやんだ」と絶賛された（エゼキエル書31：8－9）レバノン杉をいちじく桑のように大量に供給した。いちじく桑は街路樹にもなり、石灰岩層のシェフェラにも茂る安い材木である。

「れんがが崩れるなら、切り石で家を築き桑の木が倒されるなら、杉を代わりにしよう。」（イザヤ書9：9）

イスラエルの民は与えられた罰としての災難から学ぶこともなく、傲慢な心を変えない。壊されたらよりよい形に復興する、とうぬぼれる。れんがより立派な切り出された石を使用し、いちじく桑が倒されたらはるかに優れたレバノン杉を利用すればよい、とうそぶく。宿敵が「大口を開けて、イスラエルを食らった。」という結末になる。史的事実も明かされているようだが、象徴的出来事としても理解できようか。「賢者は歴史に学ぶ」という後世の名言もある。（なお、新共同訳が「桑」と訳した木は、「いちじく桑」、「杉」は「レバノン杉」のこと。）

Wikimedia Commons より

ザアカイがイエスを見るために登った街路樹

それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。（ルカ19:4）

ザアカイは徴税人の頭で金持ちであった。背が低かったので、エリコに入ったイエスを見るために「走って先回りし」登った木がいちじく桑であった。徴税人はローマ政府の手先となり、私腹をこやして、売国奴、裏切り者とされ、忌み嫌われていた。社会的には高い地位にある人物が走って木に登ったりしては、物笑いにもなる。恥を忍んでザアカイはいちじく桑の木に登ってイエスを見たのである。どんなひどい人間でもイエスに思いを馳せれば、イエスはその客人となる。ザアカイは生まれ変わった。異邦人の圧政者とグルになった悪徳徴税人は、築いた財産を貧しい人たちのために投げ出す。「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」（10節）とザアカイの物語は結ばれる。

～ オルガン講習・感想文 ～

大好きなオルガン（憧れと３つの夢）

社会人聴講生　**小宮喜代子**

17年程前、シンフォニーホールではじめてパイプオルガンを聴きました。荘厳な響きの印象しかなかったそれは、想像もしていなかった多彩な響きで、大変感動しました。“触れることのできない憧れの楽器”になりました。

数年前、ある小学校が処分する足踏みリードオルガンを頂きました。小１の教室にあった同じオルガン、懐かしい。その素朴な優しい音が好きで習い始めたのを思い出しました。

夢の１つは、老後に欧州旅行、そして教会のパイプオルガンを聴くことです。その国の文化を知れば旅行も楽しくなると思い、『イギリス文化』を聴講。度々大学のチャペルコンサートで、手の届きそうなところで聴かせていただきました。このオルガンが弾きたい！という一心で、厚かましくも講習に申し込みました。でも大変人気の講習と聞き、半ば諦めていました。幸運にも受講でき、１つの夢が叶いました。

小フーガ・ト短調は昔から好きでした。ただ弾くだけではなく弾き込みたい曲。修了演奏会で弾けて、また１つ夢が叶いました。バッハとフーガが大好きです。講習当初、松原先生がコンサートでよく話され、弾かれているこのオルガンに似合った曲を教えて頂こうと思っていました。そうしなかったことは少し

後悔しています。でも楽しかった。聴講や講習で学び、知らないことを知る楽しさ。幾つになっても成長できるのだと分かりました。近い将来、もう１つの夢も是非叶えたいと思います。

松原先生、拙い演奏のパッサカリアに壮大な音色を入れてくださり、心地好く感激の内に最後のレッスンを終わらせていただいた事、生涯忘れません。沢山の事を丁寧にご指導くださり、有難うございました。そして、社会人聴講生までにも、広く貴重な体験ができる機会を与えてくださった、桃山学院大学。貴学に心から感謝し御礼申し上げます。

オルガン講習を経て

法学部４回生　**橋本　弥生**

オルガン講習のことは入学当初から知っていました。興味はありましたが、私はピアノも弾いたことがなかったので、淡い憧れでしかありませんでした。しかし今年で大学最後の年ということもあり一大決心をし、受講を決心しました。講師の松原先生は全くの素人にも一から丁寧に教えてくれ、充実したオルガン講習を送ることができました。最後の発表会では、失敗もしてしまいましたが最後までやり遂げた達成感がありました。

大学入学時から、桃山学院大学に入ったからには、ここでしか出来ないことをしようと

考えていました。調べていて知ったのが、「オルガン講習」。チャペルにあるオルガンに触る機会もないし、通常オルガンを触ることができたとしても、経験者のみなど。

初心者でも構わないと要綱には書かれていましたが、それでも不安が拭い去れず。ほかにも、部活、語学、ボランティアやインターンシップなどやりたいことがあったので、諦めていました。

3回生も終わりの頃、ちょうど先輩がオルガン講習の受講生で、感想が『SEQUIMINIME』に載っていると聞いて、キリスト教センターで読むことにしました。驚いたのが、本当に鍵盤楽器未経験も受講していること！「譜が読めること、多少鍵盤楽器が弾けることが望ましいです。」という文言に疑心していたのが、申し訳なく思いました。

難しいこともたくさんありましたが、決心して良かったと思います。松原先生、キリスト教センターの皆さんにはたくさんお世話になり、感謝の思いでいっぱいです。

元来消極的な性格がコンプレックスで、それを変えようと思って、『イエスマン』ではありませんが、自分の少しでも興味のあること、大学生として憧れていたこと、片っ端から手に付けていきました。積極的に自分から行動するのはまだまだ苦手ですが、4年間のオルガン講習も含めた自分の行動を自身に持つことができました。諸々の経験をこれから揉まれるであろう社会の厳しさに、一人前の社会人に早く近づけるよう糧にしていきたいと思います。

やってみること

法学部3回生　**榎本　汐莉**

3回生になったあたりから卒業までの残り時間を意識しはじめ、大学生活中にやっておきたいことを頭の中でリストアップし、あれこれ手を出すようになりました。パイプオルガン講習もその一つです。キリスト教音楽を履修したときに、生でパイプオルガンとその演奏を見て漠然と「すごい、かっこいい！」なんて感想を抱いたのが受講のきっかけでした。そして講習の存在を知り、チャペルのパイプオルガンという滅多にさわれない“スゴイもの”で毎週演奏できる、しかも無料で!やるしかないな!というなんとも軽い気持ちでキリスト教センターに応募用紙を持って行ったのです。

ピアノは経験があったものの長年のブランクがあった状態で、ピアノにはない足鍵盤やオルガン独特の指づかいや音の出し方に苦戦しながらも、松原先生の丁寧で優しいご指導のもと毎週楽しく演奏することができました。チャペルというきれいで落ち着いた場所でパイプオルガンを弾くことは、週に一度の気分転換としても非常によかったです。

一度文化祭で開催されたチャペルコンサートでは余興のようなものとして一曲披露する機会をいただいたのですが、緊張のあまり上手く演奏することができませんでした（あんなに人がいるなんて…）。そんな手痛い失敗を経たおかげで、修了式の発表会では気持ちに余裕をもって納得のいく演奏ができたので、私としては大満足です。恥ずかしいことに、他の受講生の方々と比べて私はずいぶんと劣る腕前なのですが、それでも一曲仕上げて演奏するのは楽しいし、他の方の演奏を聴くことも感動の連続でこの1年本当に良い経験をしたなあと思います。大学生活を送る中で、新入生の皆さんはたくさんのものに出会うでしょう。そのなかで何かに興味を持ったら、是非やってみてほしいと思います。桃大ではパイプオルガン講習はもちろん、他にも様々なことにチャレンジする機会があふれています。是非それらを楽しんで、素敵な大学生活を送ってください。

講習では松原先生、練習ではチャプレン・キリスト教センターの皆さんにたいへんお世話になりました。末筆ではありますが厚くお礼申し上げます、ありがとうございました！

心に響く音色

国際教養学部３回生　　井上　絢加

私がパイプオルガン講習に参加しようと決めたのは、桃山学院大学で行われているチャペルコンサートに行ったことがきっかけです。私は３歳の頃からずっとエレクトーンを習っており、特に音楽には興味があったので、軽い気持ちでチャペルコンサートに足を運びました。そのときに私は初めてパイプオルガンの音色を間近で聴き、とても素敵な音色だと思いました。そして演奏している姿を見て、「ペダルもあって、鍵盤は上下２段あるってことはエレクトーンと一緒なのかな」と疑問に思いました。そう思っているときに、このパイプオルガン講習があることを知り、参加することを決めました。

実際パイプオルガンに触れてみると、鍵盤のタッチや音が途切れないように弾く演奏法などエレクトーンとは全く違っていました。「ペダルはエレクトーンにもあるし絶対にいける！」と思っていましたが、エレクトーンとは感覚や距離感、また両足での演奏法など異なる部分が多く、ペダルは私にとってエレクトーンの感覚が染み付いているからこそ特に苦労したように思います。しかし練習を重ねていくうちにパイプオルガンの演奏にも慣れてきて、日々の練習がとても楽しくなりました。パイプオルガンを弾いている時間は嫌なことも忘れることが出来る最高の時間でもありました。そして最後の発表会では、今まで積み重ねてきた成果を自分なりにみんなに伝えようと思い、一生懸命演奏しました。少し失敗しましたが、演奏が終わった後は達成感でいっぱいでした。

私は今までエレクトーンという楽器にしか触れたことがなく、今回パイプオルガンという全く知らない楽器に触れることができ、エレクトーンとはまた違った素晴らしさを味わうことができました。また、何事にもチャレンジすることは、自分の視野を広めることが出来るし、自分にとって大きな発見にも繋がると思います。この経験を忘れずに何事にもチャレンジしたいと思います。

オルガン感想文

経済学部４回生　　稲村有李乃

オルガンとても楽しかったです！ オルガン発表会ではバッハのトッカータを弾きました。とても有名で面白い曲で、松原先生に選曲していただいたときはとても嬉しかったです。

私は１回生の時からずっとチャペルのオルガンに興味を持っていました。私もオルガンを弾いて、これから留学する学生を送り出したりしたいな～と考えていました。オルガン講習は４回生になってやっと受講する時間ができましたが、講習が始まるまでにオルガンを弾きたい気持ちがおさまらず、先生に頼んだところ一度礼拝で弾かせてもらうことができました。

オルガンはピアノとは違うので初めは慣れるのに少し時間がかかりました。しかし、ピアノとは全然違う魅力に気づくことができました。オルガンはいろんな音を出せるので一台で弾くだけでオーケストラみたいな音になること、音域が凄く広いこと、３階建てで、もはや１台で１つの建物になっていること、素敵な模様があること、すべて初めて知りました。こんな素敵な楽器をなぜ今まで知ることがなかったのだろうと思いました。値段が高いからかな ??

講習を受けだんだん慣れてくると礼拝のお手伝いでオルガンを弾かせてもらえるようになりました。先生には助かると言ってもらえるし、私自身とても充実していたと思います。オルガンを練習する時間が増えると、それは音楽と触れ合っている時間も増えるというこ

とになります。音楽には人を癒す力があることをピアノから学んで知っていましたが、更にオルガンという別の種類の楽器と触れ合うことで、もっと癒されたと感じました。

私の考えですが、ピアノやフルート、バイオリン、トランペット、木琴、ティンパニー、色んな音を出す楽器があり、それぞれが癒す力を持っています。オルガンは本体が大きいからか、たくさんの音が出るからか、響く場所にあるからか、理由はわかりませんが、もっと凄い大きな力を持った楽器のように思いました。

オルガンと出会って

経済学部４回生　**皆川　智苑**

私はあまりチャペルに立ち寄った事がなく、オルガンに触れ合う機会がありませんでした。今回友達に誘われて、初めてオルガン講習を受講することになりました。もともとピアノを習っていたので、楽譜さえ読めれば弾けるだろうと安易に考えていました。ピアノと違って鍵盤が二段あり、また足でペダルを踏みながら演奏するので、両手両足を同時に動かさないと、オルガンの魅力であるきれいなハーモニーが出せません。また鍵盤から手を離すとピタッと音が止まってしまうので、メロディーをきれいにつないで弾く事が重要になります。ピアノの場合は上手くペダルを踏んでごまかせたものの、オルガンとなるとごまかしが効かなくなり、最初は思うように弾けませんでした。また両手両足を同時に動かすことに慣れるまでとても苦戦しました。

毎回の30分間のレッスンでは、松原先生が丁寧に教えて下さりました。ゆったりとした感じで楽しみながら受講していたので、いつもあっという間に時間が過ぎていました。楽しい時間は過ぎるのが早いもので、ようやくオルガンを弾くことに慣れてきた頃には、ちょうど２週間後に発表会があることに気付きました。この２週間はレッスン以外にも、自主的にチャペルに行き、課題曲の練習に集中しました。先生の講習を受けるのも楽しかったのですが、一人きりでの練習も楽しく、誰も居ないチャペルで、オルガンの音だけが響いている空間がとても居心地が良かったです。

半年間という短い期間の受講でしたが、最後の発表会では私の大好きなパッヘルベルのカノンを弾いて終える事ができ、とても良い思い出となりました。ピアノやエレクトーンなどの身近な楽器とは違い、オルガンはなかなか触れ合う機会がないので、良い体験となり、また良い刺激となりました。

もう桃山学院のチャペルでオルガンを弾けないのが少し寂しい気持ちもしますが、１つの学生の思い出として心に刻んでおきたいと思います。

オルガンを教えて下さった松原先生、お世話なりました。ありがとうございました。

感想は、「とても楽しかった!!」それに尽きます

国際教養学部３回生　**木村　美亜**

昨年度、同じ授業だった友人が修了演奏会に誘ってくれました。そこで初めてチャペルに入り、パイプオルガンの存在を知りました。いえ、存在は知っていました。オルガンコンサートの告知はチャペルの前にポスターがありましたし、大学からのメールでもよく見ていたのですが実際に足を運んだことは一度もなかったのです。お呼ばれした修了会で、その友人の弾いた曲と初めて聞いたパイプオルガンの重厚で多彩な音色に興奮し、今年度必ず受講しようと決めました。

私は幼少より何年かピアノを習っていましたから、多少感覚は違えっても似たようなものだろうと思っていました。しかし実際に教

えてもらい弾いてみるとなかなかうまくいかないもので、あっさり苦戦を強いられました。私は特に足を使うことが苦手です。鍵盤が下にあるため視認できない上に踵を使ったりつま先を使ったり、また右足のつま先で押さえていたものを左足に置き換えたりするので、考えながら弾いているといつの間にか手の鍵盤も押さえたまま指がとまります。講習中に先生から「もう一つ右（左）！」「次の音の準備をしてね」など、さて何度言われたことでしょうか。本当はもっと個人練習をしてたくさんの曲を教えてもらうつもりでした。修了演奏会ではもっと格好よく演奏する自分を想像していました。実際は恥ずかしくも誰より明らかなミスが多く…上手くいかないものです。

普段の練習は二つくらいしかパイプを開けませんでしたが、本番が近付くと五つかそれ以上パイプを開くようになり鍵盤が重くなりました。ピアノは鍵盤が重くなるなんてことはありませんから、これにも少し戸惑いました。

パイプオルガンを弾くことなんてなかなか経験できないことです。それを約半年もの長い期間講習を受けることができ、この大学に入ってよかったなぁと友人や松原先生に出会えてよかったなぁと思います。

オルガン講習を通して

社会学部４回生　**番匠　祐貴**

先生のご厚意により今年度も受講させていただきました。毎週の楽しいレッスンありがとうございました。

前期は就職活動などにより練習やレッスンを欠席することが多く、そのため発表会用の難しい曲に挑戦する機会がなかなか出来ず、内心焦っていました。恐らく先生も焦っていたはず（笑）。後期は出遅れた分を取り戻すために練習していました。私以外の人も後期になってから練習に熱を入れていたところをみると似たような人が多かったのかもしれません。

本番に関しては、昨年度は慣れていないがゆえのミスが目立ったのですが、今年は慣れから来る油断によるミスが多かったです。油断大敵とはこのことだ、と自分の不甲斐なさに呆れてものも言えませんでした。しかしながら何事につけても慢心するな、とお灸を据えられた感が大学生活最後には良かったのかとも考えています。

さて、この文章に目を通しているということは、大学生活をより良くしようと思っている学生またはただ単に講義等で仕方なく配られた学生、近隣にお住まいの方々、学校等関係者などさまざまだと思います。どのような人にせよ過ぎ去った時間が戻ってくることはありません。一度きりの時間を自分の好きなことに、楽しめることに取り組めばと思います。但し周囲に迷惑をかけない程度に、ということは最低限の条件ですが。

私は好きな音楽に対して、ミッションスクールならではという形で触れることができて良かったと思っています。これからもどうにか時間を見つけながら音楽に触れて行きたいとは考えています。皆さんも何か打ち込めることを見つけ取り組んでいってください。

二回目のパイプオルガン講習を終えて

法学部４回生　**吉内　隆弥**

パイプオルガン講習、本当に楽しかったです！

まずこのパイプオルガン講習を受けるきっかけは、入学式の日に実際にパイプオルガンの演奏を聴いたことでした。その時、体に、心に響くオルガンの音を聴いて、自分もこの

楽器を演奏することが出来ればなー！と思いました。後日キリスト教センターの前で講習生募集の張り紙を見つけて、すぐに募集しました。

1,3 回生の時は定員オーバーで受講できなかったので、2 回生の時に一度、そして今回で 2 回目の講習でした。今回は 2 回目ということもあり、前回よりは要領も分かっていたので、たくさんの曲を練習することが出来ました！でもやはりパイプオルガンは両手、両足を使っての演奏、ピアノとは違う持続音の大切さ、指や足の置き換えなどなど…いろいろなことを考えながら演奏しなくちゃいけなくて大変ではありました。けれど、その分やりがいがあって、練習して難しい個所をうまく弾けるようになるのがとても快感でした。

12 月の発表会では、メンデルスゾーンの「アレグロ・マエストーロ」オルガンソナタ第二番より、という曲を演奏しました。とても壮大で、華やかな曲で、聴いてくれる人も演奏する自分自身も、とても豊かな気持ちになれる曲でした。本番は集中していてなのか緊張していてなのかはわからないのですが、演奏中の記憶がほとんどないです！ ですが、自分のできる限りの気持ちを込めて演奏できたので、本当に良かったなと思っています。

パイプオルガンはとにかく大きくて、迫力があって、かっこよくて！ 毎週水曜日の練習日がいつも楽しみで、演奏していてとても楽しかったです。こんな貴重な体験を提供してくれたキリスト教センターの方々には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです！ ありがとうございました！

貴重な体験をありがとうございました

社会学部 2 回生　**寺山　咲希**

私は一回生の頃に、この大学にパイプオルガンがあり講習を受けることができると知り、ぜひその講習を受けてみたいと思いました。パイプオルガンに触れることができる機会などこの先ないだろうと思ったからです。なので、この講習を申し込みました。

一回生の頃は、授業の都合で講習をとることはできなかったので、二回生になってから受講しました。私はピアノは習っていて弾くことはできますが、エレクトーンやオルガンにはほとんど触れたことがなく二段になっている鍵盤や、足で弾く鍵盤も初めてで、楽しみでした。そしてなにより、パイプオルガンに触れること、パイプオルガンという楽器について知ることに興味があり、とても楽しみでした。楽器の構造や歴史についても学ぶことができ、とてもおもしろいと感じました。

私はあまり自宅や大学の練習室での練習の時間がとれず、ほとんど毎回、講習の時間に初見というかたちが多く、初見が苦手な私には少し不安でした。しかし、毎週の講習の時間がとても楽しみで、早くパイプオルガンに触りたいなという気持ちでした。また、この時代の曲も少し弾くことが苦手だったのですが、初めて触る楽器ということで、そのことに意識がいったので、なんとか乗り切ることができました。

最後の発表会だけでなく、学園祭でも、聖歌隊の舞台の部のつなぎという役目で人前で発表する機会を戴けたのは、とても嬉しかったです。発表会の練習のような感じで気軽に演奏することができました。発表会では、他の受講者の方々の演奏を聴くこともでき、とても楽しかったです。

パイプオルガン講習を受けて、知らない楽器や音楽に触れる楽しさを実感することができました。そして、これからも様々な音楽に触れていきたいと思います。

とても楽しいと感じることができたので、もう一度講習を受けたいとも思いました。とても貴重な経験ができました。ありがとうございました。

＜2013年1月～2013年3月までのキリスト教センター諸行事＞

1月	7日	新年賀会（聖ヨハネホール）
	12日	振袖の会（於ヨハネホール）
	15日	第4回国際ワークキャンプ実行委員会
		バイブルランチ
	16日	キリスト教センター運営委員会
	17日	故大原始子氏逝去者記念式
	18日	秋学期終業感謝礼拝
		長期派遣留学生・海外研修参加学生壮行礼拝
2月	4日	冬期日本語プログラム始業礼拝
	5日	秋学期交換留学生修了礼拝
	12日	SCA日帰り見学会（奈良）
	12日	アメリカンフットボール部　2011年度感謝・激励礼拝
	13日	学生表彰式
	14日	冬期日本語プログラム祝福礼拝
	15日	チャペル見学（松原第2中学校）
	22日	冬期日本語プログラム修業礼拝
3月	1日	チャペル見学（大阪学芸高等学校）
	12日	AO入試合格者対象入学前通学講座開講式
	14日	チャペル見学（大阪府立貝塚高等学校）
	16日	チャペル見学（和歌山県立笠田高等学校）
	17日	卒業記念礼拝
		卒業証書・学位記授与式
		学部成績優秀者表彰式
		聖歌隊学生派遣・祝福礼拝
	19日	チャペル見学（和泉市立青葉はつがの小学校）
	22日	宗教活動協議会
	23日	フレッシャーズキャンプ・学生スタッフ任命式ユニフォーム授与式
	26日	スポーツ推薦入学者激励会
	27日	社会学部主催　学生リーダー育成プロジェクト記念式典
	30日	教職員退職者感謝記念礼拝

† 聖公会とは †

桃山学院大学の建学の精神は、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）です。教派としては日本聖公会に所属しています。聖公会は、英国宗教改革から始まり、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、太平洋など世界中の国々に広がり、信徒数７千万人を越えております。このような世界的な組織の中で、日本聖公会は重要な位置を占めています。日本においては約 350 の教会、約５万人の信徒を擁し、キリスト教の宣教活動に加え、さまざまな教育・医療・社会福祉などの事業を全国各地で行っております。
本学姉妹校としては、立教、立教女学院、聖路加看護、名古屋柳城、平安女学院、プール学院、松蔭女子学院、神戸国際などがあります。聖路加国際病院、聖バルナバ病院もよく知られています。本学は、世界に広がる国際的なネットワークの中で、その一員として、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）に基づき、「世界市民の育成」をめざして努力しております。

◇ 編集後記 ◇

「SEQUIMINI ME」第 44 号ができあがり、ご寄稿いただいた方々に心から感謝いたします。このチャペル・ニュースを通して、新入生の方々のみならず在校生、教職員の方々にもチャペルへの興味を持っていただければと願っております。

（チャプレン　司祭　ヤコブ　松平　功）

「SEQUIMINI ME」桃山学院大学チャペル・ニュース第 44 号
2013 年 3 月発行
発行所　桃山学院大学キリスト教センター
〒 594-1198　大阪府和泉市まなび野 1 番 1 号
TEL　0725-54-3131　FAX　0725-54-3210
印刷所　和泉出版印刷株式会社
〒 594-0083　大阪市和泉市池上町 4 丁目 2 番 21 号
TEL　0725-45-2360　FAX　0725-45-6398

桃山学院の「キリスト教精神」

「自由と愛の精神」

桃山学院の学院章には、“SEQUIMINI ME”（我に従え）という言葉が刻まれています。それはイエスの弟子アンデレがイエスに従ったように、「自由と愛の精神」をもっていきることです。使徒パウロが書いています。「あなた方は、自由を得るために召しだされたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。」（ガラテヤの信徒の手紙５章13節）

自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とはひとりの人格と主体性を尊重すること、「愛」とは互いに仕えあいながら他者と共に生きることです。この「自由と愛の精神」は、単にキリスト教の立場だけでなく、すべての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。

人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想をめざしてチャレンジし続けていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神」であり、「世界の市民」への道なのです。

桃山学院大学チャペル（聖救主礼拝堂）

〒594-1198　大阪府和泉市まなび野１番１号
TEL　0725-54-3131
FAX　0725-54-3210